

## 教育課程特例校 英語科の学習について

令和5年度第一回学校運営協議会 にて

【6年生 Unit2の学習の様子を見て】 担任とALT(ダブリン先生)による授業を見て

- ・中学校での英語の学びの準備として、大変よい取り組みだと感じた。
- ・「話す」、「書く」を主に学べる環境があり、今の子どもたちは本当に幸せで、羨ましいです。
- ・英語はみんな同じところからスタートするので、楽しみながら得意教科となるように授業を進めていただきたい。
- ・小学生のころから英語に接する、勉強することは大変重要である。早いうちから接することが、理解を深めます。
- ・「聞く」→「話す(コミュニケーションする)」→「書く」→という流れで授業を進めていくのがとてもよいと思いました。単語や文法の勉強よりも、まず、英語が楽しいものだを教えていただき、苦手意識をもたずに中学生後に入っていけたらと思います。
- ・小学校で「書き」まで含めてしっかり指導されていることがよくわかりました。であるからこそ、小中の接続を具体的に考えていくことが大切だと思いました。
- ・自分の考えを英語でうまく伝えられるようになるとうい。英語を聞き取る能力も付けてほしい。
- ・外国の先生と「話す」機会はとても有意義で、継続してほしいです。休み時間にも一緒に遊びながら英語でのコミュニケーションがあるのは、非常に印象深く吸収しやすいと思いました。
- ・ネイティブの先生と触れ合うこともとても重要だと思いました。ダブリン先生が授業以外の所でも子どもたちと関わっていると聞き、うれしく思います。
- ・小学校のうちから外国人の先生との授業ができることはとてもよいです。抵抗感がないうちに始められるとうい。
- ・子どもの負担にならないよう、楽しみながら会話が学べることが大切だと思う。外国の先生の英語を聞きながら学べることは大変よいこと。
- ・教科となったことで、学級担任がどれほどの英語力を身に付け、指導にあたれるかが大きな課題ですね。
- ・小学校から広く、深く英語に触れられることは、大変いいことだと思う。
- ・小学校から取り入れられるのは、とてもよいと思います。学年が上がっていくにつれ、英語だけでインプット、アウトプットができるようになってほしいです。

(中学校)

- ・学ぶことが楽しい!が主体的に学ぶ原動力になるのではと思います。
- ・小6と中1の接続や履修内容については、小中で共通理解を図れるとういです。
- ・小中の接続を意識して、職員(教員)の交流が必要。その中で、9年間を見通した指導を確認する。